

世田谷区自立支援協議会 一次意見

すべての取組例・提言に一貫する考え方

既存のものの機能を有効活用できるようなシステム等をつくる。

別紙

カテゴリ	現状・課題	取組例・提言	
(1) 地域の支えあいの推進・障害差別の解消・権利擁護	・ 障害者と地域との出会いの場が減ってきている（世・北・玉）。	・ 社会福祉協議会（民生委員）との連携（世、玉）。イベント実施（世）。学校と連携（玉）。民間企業の企画力やビジネスを巻き込む（玉）。	
	・ 個々の施設で、地域の方への理解を深めていく活動には限界がある（世）。	・ 個々の機関だけの取り組みには限界があるため、地域のネットワークづくりに取り組むことができる事業（例：障害理解促進事業）があるとよい（世）。	
	・ 自立支援協議会の認知度や理解が不足している（鳥）。	・ あんしんすこやかセンターと自立支援協議会との協働や情報交換の場を持つ（鳥）。	
	・ 障害福祉サービスの申請書類等がわかりにくく、当事者が申請するのが難しい（玉）。	・ 申請書類等が一目みてわかるようにする（玉）。	
	・ 災害対策や災害時の情報等、必要な情報が得られず、意見も言えない。	・ 区や町内会の協力を頂き、防災訓練、福祉避難所の開設訓練などを行う（玉・砦）。	
	・ 後見人が不足しており、後見人のスキルも課題である（鳥）。	・	
(2) 医療と福祉の連携・健康づくりの推進	・ 受診できる病院が少ない、自分の症状を伝えられない、1人で検診に行けないことから大病に気づくのが遅れる、精神保健医療の現場に地域福祉の情報が全く伝わっていない等、医療と福祉の狭間が大きい（玉、四）。	・ 医療と福祉の連携に力を入れる（玉・砦）。	
	・ 卒業や転居などライフステージが変わったときに、医療につながっていない。		
	・ 体調不良の自己発信できない方の対応が難しい（玉）。	・ 検診等が受けられない方へのフォローを行う（玉）。	
	・ 健康診断等の案内が来ても受けられない人がいる（玉）。	・	
	・ 急性期病棟の場合、退院までにサービス利用調整が間に合わない（鳥）。	・	
	・ PTSD等に対応したカウンセリング料が高く、希望しても受けられない人がいる（砦）。	・	
(3) 住まいの確保、生活環境の整備	・ グループホームが少ない、特に身体障害者の方や自立度が低い方が入れるグループホーム（世、玉、砦、鳥）が少ない。	・ 空き家を活用する取り組みを行う（世）。	
	・ 一人一人の状態や好みに応じた住まいの選択ができない。	・ 行政や居住支援法人など、関係者間での情報共有を行う（玉）。	
	・ 知的障害・生活保護の方の物件探しは困難である（世・鳥・四）。	・ 福祉サービスのグループホームだけでなく、今あるものを活用してバリエーションある住まいが必要。	
	・ 物件が高く、貸す側の理解を得るのが困難であり、住民からも反対がある（世）。	・ 地域と施設との地道な関係がつけられる体制をつくる（世）。	
	・ 下高井戸周辺など、車椅子等で踏切を渡るのに苦労する（北）。	・ 障害のある方の住まいに関して地域の理解を促進する取り組み（世）。	
	・	・ グループホームやアパート等の入居費用の負担軽減策を実施する（玉）。	
(4) 就労等の活躍の場の拡大	一般就労	・ 職場への通勤手段、トイレ介助の問題などで、就労困難な方がいる（玉）。	・
		・ 50代後半の方が就労を希望してもみつからない（玉）。	・ 高齢者・障害者施設、行政など、少しのお手伝いが仕事につながる仕組みをつくる（玉）。
		・ 本人の能力を生かした就労ができていないケースがある。やりがいを持つことができない。	・ 就労体験を増やす（鳥）。
		・ 一般就労すると支援者はゴールだと思ってしまう。	・ 障害者の就労においてもディーセント・ワークの実現を目指す。
	福祉就労	・ 就労継続支援A型事業所が少ない（北・玉・四）。	・ 就労支援を半永久的に継続する（玉）。
		・ 就労系サービスの実態が把握されていない（鳥）。	・
	居場所	・ 居場所を運営していると、費用がかかり、参加費が必要となり、利用者の負担が大きい（玉）。	・ 居場所運営費用の助成を行う（玉）。
		・ 地域によって居場所の資源にバラつきがある。	・
		・ 本人にあった居場所がない（北・玉）。	・ 当事者自身が積極的に活動できる場をサポートする（玉）。
		・ デイケアや地域活動支援センターが少ない（玉）。	・ 特養などの空きのあるところで、障害高齢の短期入所や日中ショートなど現状ある枠を増やす（玉）。
		・ 地域活動支援センターを増やす（玉、鳥）。	
(5) 相談・地域生	・ どこに相談すればいいのか、どこに繋いだらいいのかわからないことがある（世・北・玉）。	・ 相談窓口をわかりやすくする（玉）。	
	・ 相談窓口が次々とできて、相談者がどこに相談すればいいのかかわりにくい（世）。	・	
	・ 何を相談すればいいのかわからない方もいる。窓口をつくれれば解決するものでもない。	・	

カテゴリ	現状・課題	取組例・提言
活支援の充実	・	・ 相談者の生活に沿って目に留まりやすいところに案内を置くなど、相談につながりにくい方への工夫（世）。
	・	・ オンラインで相談できる場所を増やす（玉）。
	・ 本人の状態像がライフスパンでアセスメントできていない（砧）。	・
	・ 障害福祉・介護保険サービスの併用について対応可能な指定特定相談支援事業所が少ない（玉・砧）。	・ あんしんすこやかセンターや高齢福祉分野と連携する（玉・四）。
	・ 介護保険と障害福祉の共生型サービスが世田谷区にない(玉)。	・ 高齢障害者向けサービスの充実を図る（玉・砧）。
	・ 多分野にまたがる相談が増加している（世）。	・ ワンストップ窓口（玉、四）、365日窓口（玉）、総合窓口をつくる（玉）。
	・	・ 地域生活拠点の取り組みなどを通じて、情報一元化システムを構築する。
(6) 精神障害施策の充実	・ 病气や引越しの時など、非日常的な在宅生活支援が十分でない(砧)。	・ 病气や引越しの時など非日常的な在宅生活支援体制をつくる（砧）。
	・	・ 就労継続B型利用者が自力通所できなくなっても継続利用できるシステムを構築する（砧）。
	・ 小規模事業所が個別送迎の仕組みを持つのは難しい（四）。	・
	・ アパート等を探すときに障害が理由で断られるケースが多い（世・玉・砧）。	・ 不動産関連の方へ啓発を行う（玉）。
	・	・ 住民との懇談会など、理解促進を図る取り組みを行う（玉）。
	・ 生活保護受給者や単身者向けのアパート・物件が少ない（鳥）。	・ 不動産屋に障害者への法定貸出し率のような数値目標をつくる。
	・	・ 強度行動障害の方が入居できるグループホームを増やす（鳥）。
	・	・ 問題を抱えた人が地域移行する場合は、グループホームの職員配置を増やせる体制をつくる（四）。
	・	・ ショートステイの充実を図る。
	・	・ ショート入院や24時間見守りがあるショートステイを利用できる体制をつくる（砧）。
	・	・ 医療が受けられ、地域生活もできる中間的なサービスを提供する。
	・ 受給者証や地域の縛りを受けず、柔軟に利用できる精神保健福祉に理解ある社会資源（地域活動支援センター、各ポートの居場所機能等）のあることは重要である（四）。	・ 地域活動支援センターを増やす（玉）。
	・ 障害の特性や症状によって公共交通機関を利用できない方がいる(玉)。	・
	・ 就労継続B型の事業所に通所していたが、薬の副作用で自力通所できなくなった方がいる。	・
・ 精神障害者に対する施策が後から取って付けたような印象がある。	・	
・ ピアサポーターを養成した後の活用方法が明確ではない（四）。	・	
・ 地域移行、自立生活援助サービス提供事業所が少ない（北・鳥）。	・	
・	・ 就労継続B型の事業所で週に1回受け入れても事業が成り立つような報酬体系にする。	
・	・ 精神科病院に長期入院している方でも就労継続B型事業所などへの通所ができるようにする。	
・	・ 長期入院者への訪問支援の継続（四）。	
・	・ 地域生活を体験できる場を増やす（鳥）。	
(7) 医療的ケア児(者)の支援の充実	・ 短期入所、生活介護、保育園が足りない（世）。	・ 受け入れ施設を増やす（砧）。
	・ 放課後デイサービス利用年齢以降の本人の居場所がない（世）。	・
	・ 住まいによって送迎が届かず、施設利用格差が出ている（世）。	・ 通所の際の民間送迎利用への費用助成を行う（世）。
	・	・ 在宅サービスが提供できる支援者の育成を行う（砧）。
	・	・ 夕方支援の充実を図る（世）。
	・	・ 施設に対して看護師募集のための費用助成を行う（世）。
	・	・ 看護師ネットワークをつくり、障害福祉サービス提供時の必要に応じて派遣されるようなシステムをつくる。
・	・ 医療的ケア児の両親への心身のケア、緊急対応、負担を軽減できる制度をつくる。	
(8) 教育・保育の充実、スポーツ等の	・ 担任の負担が大きい、障害理解も進んでいない、支援員が不足している（玉）。	・
	・ 学齢期は、学校と子ども家庭支援センター等の繋がりはあるが、障害福祉全般との接点がない（玉・砧）。	・ 学校関係者と障害支援関係者との定期的な（月1回程度）情報交換を行う（玉）。
	・ 移動支援は、単価が低く、サービス提供事業所の負担が大きい（玉）。	・ 移動支援の充実を図る（玉）。
	・ 参加したい余暇があっても、障害特性の為、移動手段がなく参加できない（玉）。	・
	・ 放課後等デイサービスとの連絡・連携がとれない（玉）。	・

カテゴリ	現状・課題	取組例・提言
余暇活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日中ショートステイが足りない。働きたい親が働けない（砦）。 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ヤングケアラーへの支援の構築。 ・ 花見堂複合施設のような色々な使い方ができる施設を増やす（北）。 ・ 相談場所をわかりやすくする（四）。
（９）サービスの質及び人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材やマンパワーの不足（世、玉、鳥）。 ・ 職員の早期退職は、課題である（四）。 ・ 人材の量と質のバランスが重要である。安心して相談できるような人材の育成が大事であるが、各々の事業所で行うのは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当事者の支援者を増やす（鳥）。 ・ ボランティアを増やす（鳥）。 ・ 介護ロボットの導入を行う（鳥）。 ・ 人材確保、育成、定着、福祉職に希望が持てるようなプラン作りを行う（世、玉、鳥、四）。
（１０）障害福祉サービス事業等の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者同士の交流・余暇事業が少ない（玉）。 ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 移動支援事業について報酬単価を引き上げる（玉）。 ・ 8050問題など多様な課題を抱える家族に対する支援体制づくりを行う（北）。 ・ 権利擁護事業の推進を図る（砦）。 ・ 緊急時バックアップセンター等について、課題をオープンにして議論を重ね、取り組む（玉）。